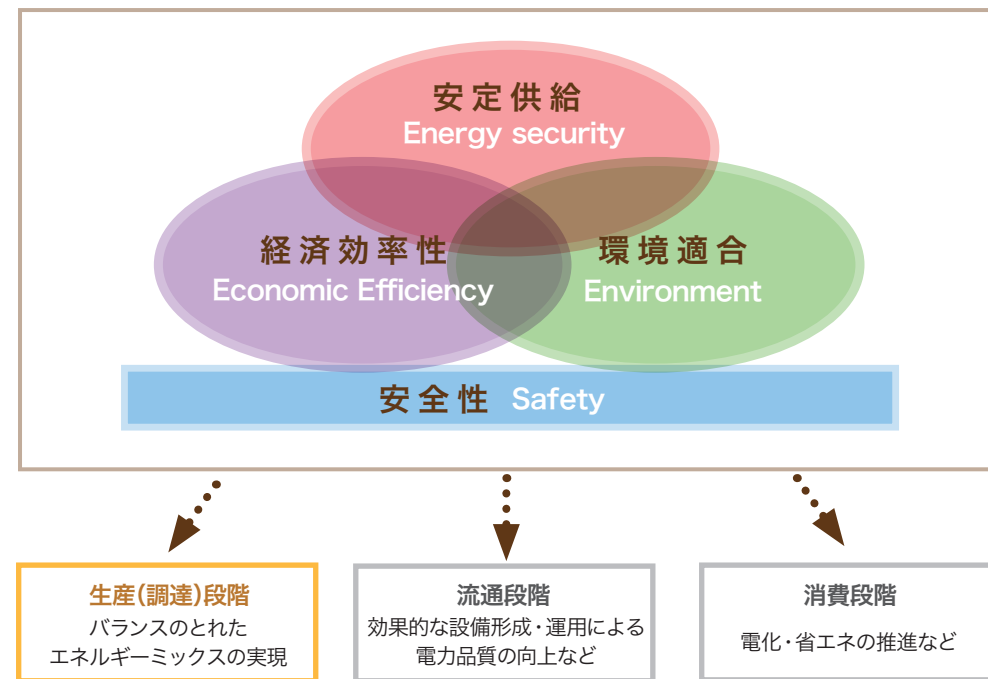


「バランスのとれたエネルギーミックス」を目指して ～「S+3E」の再構築～

エネルギーは、私たちの生活や経済活動にとって、欠かすことのできない大切なものです。世界第5位のエネルギー消費大国である日本。しかしエネルギー資源に恵まれず、そのほとんどを海外からの輸入に依存し、エネルギー自給率はわずか13%程度です。資源に乏しい日本にとって、エネルギー政策はまさに国の基幹政策。日本ではこれまで、オイルショックや地球温暖化問題への対応といった社会情勢などを踏まえながら、特定のエネルギーに依存するのではなく、「S+3E」の観点からバランスのとれたエネルギーミックスを実現してきました。

■S(Safety)+3E(Energy security)(Economic Efficiency)(Environment)



しかしながら、東日本大震災以降は再稼働した原子力発電所は少なく、火力発電へ過度な依存が続く中、2022年2月のロシアによるウクライナ侵略は、世界のエネルギー情勢を一変させました。日本においては、エネルギーミックスのバランスは失われ、3E(安定供給・経済効率性・環境適合)のすべての面においてさまざまな問題が生じています。

一方、2021年10月に「第6次エネルギー基本計画」が閣議決定され、「2050年カーボンニュートラル」を実現するために「2030年度に温室効果ガス排出量46%削減(2013年度比)」という目標と、そのエネルギー政策の道筋が示されました。化石エネルギー中心の産業構造・社会構造からクリーンエネルギー中心に転換するGX(グリーントランスフォーメーション)を目指し、原子力発電の活用はその1つとして、2023年5月にGX推進に向けた法整備がされ、エネルギーの安定供給と脱炭素の両立を目指す戦略が政策の柱として定められました。また、国際的な動きとして、2023年11～12月に開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)では、合意文書に導入を加速すべき脱・低炭素技術として原子力が含まれ、日本やアメリカを含む22の有志国で2050年までに世界の原子力発電所の設備容量を3倍(2020年比)に増やす宣言もされました。

電気事業者としても、「S+3E」の観点からバランスのとれたエネルギーミックスの達成と同時に2050年カーボンニュートラルの実現に向け、再生可能エネルギーや原子力発電の最大限の活用、火力発電の脱炭素化とともに、需要側においてもエネルギーを効率的に利用できる電化の推進に取り組んでまいります。

2024年3月 電気事業連合会

CONSENSUS

コンセンサス 目次

原子力発電の安全対策

原子力発電所の安全規制はどうなっているの？	3
原子力発電所はどんな安全対策を行っているの？	5
これまでに原子力発電所ではどんな事故が起こったの？	9
東日本大震災後の東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の状況	11

原子力発電の必要性

日本はなぜ原子力発電を使うの？	13
海外では原子力発電にどう取り組んでいるの？	17

原子燃料サイクル

原子力発電所で使い終わった燃料はどうなるの？	19
高レベル放射性廃棄物はどう処分するの？	21

廃止措置

原子力発電所は運転を終了したらどうするの？	23
-----------------------	----

原子力発電・放射線の基礎

原子力発電のしくみはどうなっているの？	25
原子力発電所や再処理工場からは放射線や放射性物質が出ているの？	27
放射線や放射性物質はどんな所にあるの？	29